

特別活動指導案

指導者 稲垣昌司

1 学年・組 第5学年1組 29名

2 題材名 5年生「友達とのよりよい関係づくり
～メールでのやりとりから考えよう～」(小学校5年生11月)
学級活動(2) ウ 望ましい人間関係の形成

3 題材のねらい

文字だけのコミュニケーションをとるとどんなことが起きるか考えることを通して、時と場に応じた手段と内容を選択する必要があることに気づき、情報機器を適切に使ってコミュニケーションをとっていこうとする態度を育てる。

4 研究主題に迫るために

平成25年度 港南区情報・視聴覚研究会研究主題

「子どもが情報を活用し、主体的に学ぶ姿を目指して」
～子どもの情報活用能力の育成と、教師の情報機器活用能力の育成～

近年の情報化の進展は著しく、インターネットなどの情報通信ネットワークは急速に進展している。日常生活においてもインターネットや携帯情報端末によって新しい形のコミュニケーションやオンラインによる商品購入など、ライフスタイルが大きく変化している。そんななかで、子どもたちの情報活用能力を育成することが求められている。その中身は①情報活用の実践力、②情報の科学的な理解、③情報社会に参画する態度、の3つがあるといわれている。本授業では、そのなかでも③について学習を進め、情報モラルを育成することを目指す。

情報モラルとは、情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度のことである。情報社会に参画する態度には、「他者への影響を考え、人権、知的財産権など、自他の権利を尊重し、情報社会での行動に責任をもつこと」、「危険回避など情報を正しく安全に利用できること」、「コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること」などがあげられるが、情報社会に見られる「影」の部分の部分を十分に理解した上で、情報手段をうまく、賢く使っていけるようにすることが大切である。

本実践では、友達から送られてきたメールの文章から、文字だけでは思いが正しく伝わらないことや、相手の顔が見えないことから普段とは違った表現をしてしまうことを例に挙げている。情報モラルに係のある国語の学習(「ゆるやかにつながるインターネット」光村図書5年)と同時進行で行うことで、インターネットを通して人とどのように関わっていけばよいかより深く考えるきっかけにしたいと考える。

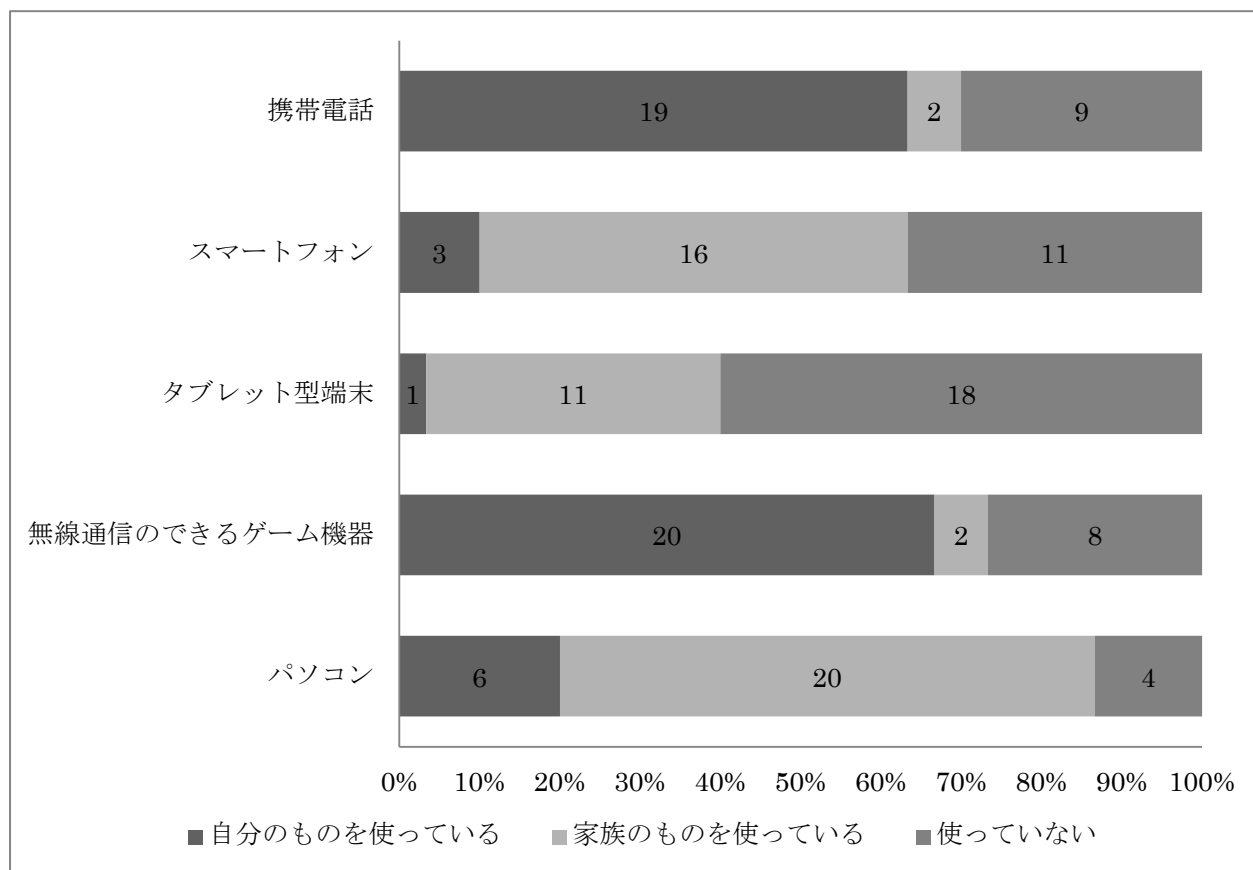
情報機器を活用して、よりよいコミュニケーションや人と人との関係作りをしていくにはどうしていったらよいか自分の考えをもつことで、研究主題にもある、「子どもが情報を活用し、主体的に学ぶ姿」の基礎になると考える。

5 しっかり教え、しっかり引き出す指導のために

(1) 子どもの実態

本学級は、元気がよく、学校生活に意欲的に取り組んでいる。下のグラフは子どもたちの情報機器の使用状況について把握するために行ったアンケートの結果である。

①どんな情報機器を使っているか。(所有者も)



②情報機器を使っている人は、なんのために使っているか。

携帯電話

電話 20 人、メール 14 人、写真撮影 4 人、ゲーム 3 人、時計 2 人、アラーム 1 人

スマートフォン

ゲーム 16 人、調べもの 4 人、電話 2 人、メール・写真撮影・地図・音楽・LINE 各 1 人

タブレット型端末

ゲーム 11 人、調べもの 3 人、ネットサーフィン 3 人、学習 1 人、買い物 1 人、スカイプ 1 人

無線通信のできるゲーム機

ゲーム 22 人、写真撮影 3 人、友達との通信 10 人、日記 1 人

パソコン

調べもの 14 人、ゲーム 7 人、ネットサーフィン 4 人、勉強 3 人、動画 2 人、
他の機器との接続 1 人

③今まで情報機器を使っていて、こまったことや心配なことはないか。

- ・ 友達がでたらめな（うその）メールを送ってくる。
- ・ メール上でけんかをしたことがある。
- ・ 自分で書いた日記が、友達からみて自慢していると思われていないか心配。
- ・ 3DSのすれ違い伝説（すれ違い広場）で「死ね」や「じゃまで〜す」というメッセージが来た。

携帯電話やスマートフォンに関しては、3分の2強の児童が所持し、日々の生活で使っているが、親との連絡のためやゲームなどに使うことが多く、友達同士でメールや電話のやりとりをすることはほとんどなく、何か問題が起きている様子もない。その他の情報機器でも大きな問題は見られないが、今後、メールやLINEなどが子どもたちに浸透し、文字だけでやりとりをする機会は間違いなく増えると考えられる。

（2）活動構想

【「望ましい人間関係の形成」のねらい 小学校】 横浜版学習指導要領 特別活動編P. 38

様々な人間関係を経験することにより、自分や友達のよさに気づき、認め合おうとする態度を身に付けることをねらいとする。（友達と仲良く、仲直り、男女の協力、互いのよさの発見、違いを認め合う、よい言葉や悪い言葉、親友をつくるなど）

友達とかかわる方法は、直接相手を前にして話をするだけでなく、手紙や電話、インターネットなど様々である。どのような方法であっても、友達とのかかわりをよりよくしたいという子どもの思いをとらえ、特に今回はメールでのやりとりを例に挙げ、相手の思いの受け取り方や、自分の思いの伝え方を考えることができるようにする。これから先、そのような場面に遭遇したとき、よりよい判断ができるよう、次の2つを視点に計画を立て指導する。

① 画面の向こうには人間がいるということを意識させる。

情報機器はハード面だけでなくソフトも日々進化している。それにともなって人と人とのコミュニケーションの仕方も変わってくるが、どんな方法を使おうとも情報の行き着く先は人である。この先、コミュニケーションの手段が変化しても、相手のことを思い、上手にその方法とつきあうことができるようにしていきたい。

② 国語の学習（「ゆるやかにつながるインターネット」光村図書5年）を平行して授業を行い、インターネットの影の部分を理解するきっかけとするとともに、道徳の時間に、思いやりをもって友達とかかわることの大切さを学んでおく。

情報モラルの教育は各教科や領域と関連させながら取り組むことが大切であると言われている。本時の前後に国語の学習や道徳の時間を意図的に行うことで、より効果的に学習が進められるようにしたい。

6 本活動における評価規準

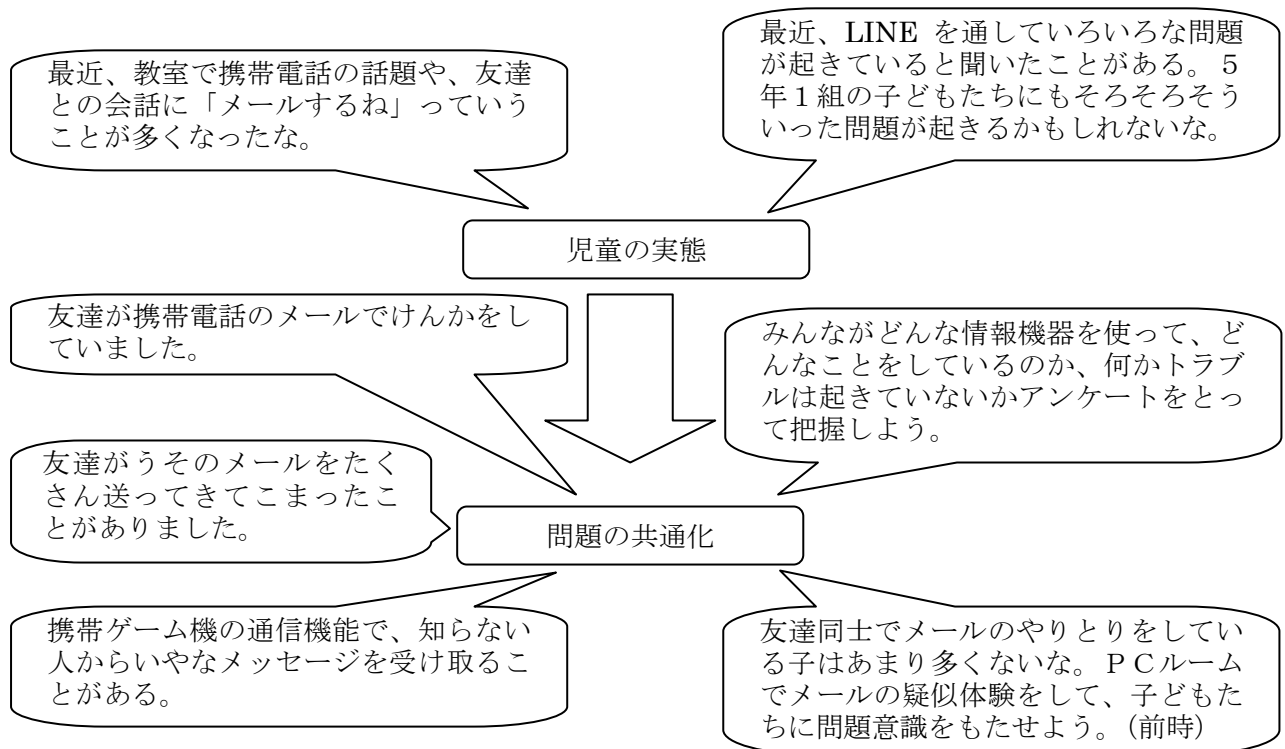
集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
日常の友達とのかかわり方に関心をもち、よりよい人間関係を築くために、文字でのやりとりについて考える実践に進んで取り組もうとしている。	文字でのやりとりをきっかけに、友達とのよりよい関係を築くための課題を話し合い、相手の思いを受け取ったり、自分の思いを伝えたりすることについて考え、判断し、実践している。	よりよい人間関係を築く上で、相手の思いを確認したり、相手への伝え方を考えたりすることの大切さに気づき、よりよいかわり方などが分かっている。

7 指導計画と評価計画及び活動の実際

事前の活動 [児童の実態・問題の共通化]

○子どもの活動

◎担任の支援



○子どもの活動	◎教師の支援 具体の評価規準と評価の観点【評価方法】
1. 前時に体験したメールのやりとりを思い出 し、感想を伝え合う。 ・ 友達とのやりとりが楽しかった。 ・ いやな気持ちになるメールがあった。 ・ あまり相手のことを考えずにメールを 送ってしまった。 2. 資料を提示し、感じたことや問題点、その 後の展開について話し合う。 ・ たかしは言い方がきつく、えらそう。 ・ たかしは励ましていると思う。 ・ 文字だけだといろいろな読み取り方が できる。 ・ 相手の表情や抑揚が分からないから正 確に伝わらない。 ・ どう読み取っていいか分からない場合 は確かめた方がよい。 3. メールを使って友達とやりとりをするとき はどんなことに気を付けたらよいか話し合 う。 ・ メールで伝えるべき内容がよく考えて から送る。 ・ 相手を読んだらどう思うか考えながら 文章を考える。 4. 今日の学習を振り返り、感じたことや考え たことを書く。	◎ メールを体験したうえで浮かび上がった問題 点だけでなく、メールのよさにも気づけるよう にする。 ◎ どうして正確に伝わらないのか話し合わせる ことでメールの特性を理解できるようにする。 ◎ 読み取り方の違いによってその後どのような 展開になっていくか考えさせ、メールでのやり とりの危うさを感じられるようにする。 ◎ 送り手の真意が分からない場合、どうすればよ いかまで考えられるよう、子どもの話し合いの 方向付けをする。 ◎ こうならないためにどんな方法があったら うかと考えさせることで、メール以外の方法 （直接会って話す、電話するなど）にも目が向 けられるようにする。 ◎ メールを使うときに気を付けることだけでな く、メールのよさを生かして、どんなときにメ ールを使ったらよいか具体的な場面も考えら れるようにする。 ◎ 話し合われた内容からキーワードを板書し、メ ールに限らず、よりよい人間関係を築くために 大切なことはどんな方法であろうと同じであ ることを気づくようにする。 知相手の思いを確認したり、相手への伝え方を考え たりすることの大切さに気付き、よりよい人間 関係の築き方を分かっている。

友達とよりよい関係をきずくために ～メールでのやりとりについて考える～

名前

明日はいよいよ区の球技大会です。たかしはバスケットボールに出場します。

たかしはシュートが苦手で、これまで1ヶ月以上朝練や体育の時間に練習してきました。
夕方、たかしの携帯電話にチームのキャプテンであるけんたからこんなメールが届きました。

date : 2013/12/11 18:00

from : けんた

件名 : 明日の球技大会

いよいよ明日は球技大会。
絶対に勝ちたいからシュートははずすなよ！

① たかしはこのメールを読んでどう感じたでしょうか？

.....

.....

.....

.....

② けんたはどんな気持ちをたかしに伝えたかったのでしょうか？

.....

.....

③ 友達とよりよい関係をきずくために、メールをどのようにつかっていけばよいでしょうか？

.....

.....

.....

.....

.....

.....